



令和4年10月20日
海上保安庁

いざ、南極へ！

～第64次南極地域観測隊に海上保安官が参加～

海上保安庁は、我が国が最初に南極観測船「宗谷」により南極観測を開始した昭和31年から同観測に参加しています。

今年も海上保安官1名が参加し、南極地域において、船舶の航行安全の確保や地球科学の基盤情報の収集などを目的とした海底地形調査及び潮汐観測を担当し、他の隊員と協力しながら任務にあたります。

南極地域観測は、国際協力のもとに国が行う事業であり、関係機関がそれぞれの担当分野の観測等を行っていますが、海上保安庁では船舶の航行安全の確保や地球科学の基盤情報の収集などを目的とした海底地形調査及び潮汐観測を担当しています。

これらの調査観測は、海上保安官を含む南極地域観測隊により、南極観測船「しらせ」に装備されたマルチビーム測深機を使用して精密な海底地形データを取得し、また、南極・昭和基地で潮位の変化を記録する験潮所を運用して行われます。得られた海底地形調査や潮汐観測のデータは地球科学の基盤情報として活用されるほか、昭和基地周辺の海図の整備にも利用されます。（*）

南極地域観測隊は、今年で第64次隊となり、今回夏隊員として参加する

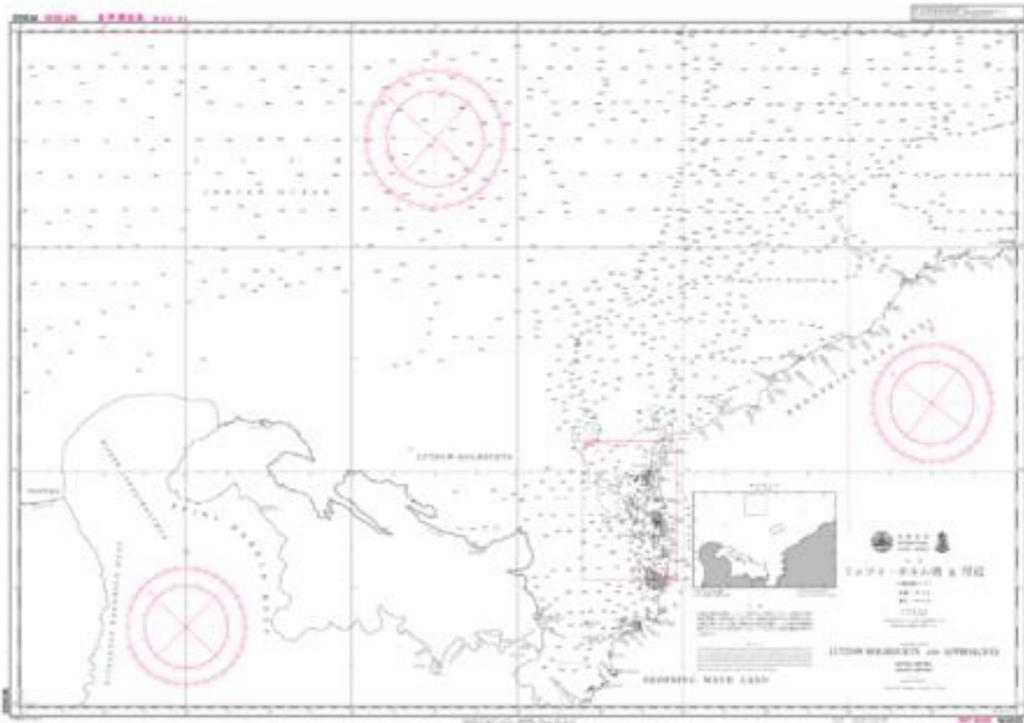
石川 美風香（いしかわ みるか）（海洋情報部沿岸調査課）

隊員は、11月11日に東京を出港する「しらせ」に乗船し、昭和基地に向けた航海に出発します。約4カ月の観測に従事したのち、来年3月22日に帰国する予定です。

（*）国際水路機関（IHO）は、南極地域水路委員会（HCA）を設置して南極大陸周辺の海図作製を進めており、日本（海上保安庁）は南極周辺海域のうち昭和基地周辺の海図を刊行しています。



「しらせ」での観測の様子(第 63 次隊)



当庁が刊行する南極周辺海域の海図